

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000314		
法人名	社会福祉法人 きたの愛光会		
事業所名	グループホーム秋桜		
所在地	北見市北光296番地7号		
自己評価作成日	平成26年10月15日	評価結果市町村受理日	平成27年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action_kouhvou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000314](http://index.php?action_kouhvou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000314)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の皆様のご協力を頂き、盆踊りや合同誕生会と一緒にゆったり交流を深めております。今後もこれらの活動を大切にし、継続し、地域にしっかり根付いたグループホームになるよう努めております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成26年11月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の実践を目標にして取り組んでおります。理念をいつでも見えるところに、掲示しております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気軽に交流できるように、春から夏にかけては外にて日光浴をする時間を設けております。その際に、近所の方と話したり、お互い畑で取れた物などをやり取りしたり、顔を合わせるたびにあいさつをさせて頂いているおかげで、協力者が増え周辺の整備や畑の仕事、花壇などの作成など数多くの事を近所の方が、行ってくださっております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内行事も花見、合同誕生会、盆踊り、避難訓練にも参加させていただいており、その際に、近所の方に、会話の中で認知症について話をさせて頂いたり相談を受けるなど行わせて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者との日程が合わず不定期になってしまっており、まず会議を実施しております。話が一方的になってしまう事が多くなっていますが、出た意見はすぐ取り組めるよう努めております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の主催する研修・会議に(積極的に)参加すると共に、必要に応じ市と連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでおります。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内・法人外の、身体拘束の研修に(必要に応じて)参加し研鑽を積み、法人の身体拘束の指針を正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでおります。センサーマットを使用する際はご本人、ご家族に了承を得て使用させて頂いております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について職員一人一人が虐待に対する関心は高く、不定期ではありますが、月のミーティング等で、全員で学ぶ機会をもうけ虐待を起さないよう注意を払い防止に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修などに(積極的に)参加すると共に、職員が必要性的について理解をし必要な人が出来た場合、制度を活用できるよう取り組んでおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族が、十分に理解・納得できるように親切・丁寧の一つ一つ契約書を確認しながら説明を行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に利用者が、意見、不満、苦情を話せる環境を整えるとともに、利用者については、常に状況を観察し表情態度から読み取ると共にそれらを、運営に出来るだけ反映させるようにしております。契約者様については、契約時に重要事項説明書にて説明を行い、意見箱も設置しております。玄関にポスターや掲示物により周知できるようにしております。また、家族会を通じても意見を反映することが出来るようにしております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が運営に関し意見や提案を行える場として、月一回のミーティングを開催しており出された意見等については、出来るだけ反映できるように努めております。母体施設の施設部門係長・計画作成主任にも参加頂きその都度意見をいただいております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し、将来に向けて向上心を持って、働き続ける環境を整えるためテーマを設定し学習するとともに、本人にとって必要な資格取得について認識をしてもらい母体施設で行っている試験に向けての自主的な学習会に出来るだけ参加しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成については、個々の段階に応じ研修を法人内部で実施しております。また外部研修も参加できる機会を確保しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上に努めていますが、他のグループホームとの職員の交流や事例等交えた意見交換等は、協議会の集まり等に参加し出来るだけ多くの他グループホームの職員と交流できるようにしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に聞き取りを行いそれに基づいて、寄り添う事からはじめ、話を傾聴し面談の中から本人の思いや不安を少しでも引き出せるように、出来るだけ早期に信頼関係が、構築できるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との信頼関係の構築のうえに、サービスを利用するに至るまで家族の思いや不安に対しても十分傾聴し、受け止めるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話を傾聴し適切なサービスの利用に結びつくよう支援すると共に、必要に応じてその地域を担当している居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへ相談する等連携を図っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添うことを大切にしお互いに学んだり支えあい、信頼関係を構築するように努めております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の行事等(焼肉・クリスマス会)を通じ交流するとともに、利用者の通院などの利用に際しても都度連絡をしたり一緒に同行して頂いたり御家族と一緒に本人を支える関係を築いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き慣れている病院・店などは出来るだけ行けるように支援しております。面会なども制限していないため余程の事がない限り どなたでも尋ねてきた人は、お通しております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋に引きこもらないように、個人の嗜好に合わせ居間で歌・体操・読み聞かせ・ゲームなど行い出来るだけ皆さんと一緒に行動できるようにしております。なかなか会話にならない人などは、会話の仲介を行ったり話題を提供することにより少しでも関わりが持てるようにしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退所されてた方で、次の入所施設が決まるまで、郵便物などの管理を行ったり面会に、訪れるなど関係を継続するよう努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のミーティングなどで話し合い、できるだけ本人の意向に近づけるように努力しております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・担当の居宅支援事業所、包括支援センター、家族より聴き取りを行い出来るだけなじみの暮らしが出来るようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の行動や会話の中からその人の置かれている状況を的確に把握するように努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で、話し合ったもので原案を作成し、本人・家族などと話し合い、介護計画にそれぞれ意見が反映されるよう努めております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート・個人記録などを利用し情報を共有しながら実践や介護計画見直しに生かしていますが、まだまだ情報量が不十分な箇所があるので少しずつでも改善できるよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人では入所施設・居宅サービスを実施しており、その機能を活かして、必要に応じて支援を行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方の畑、草刈などのボランティア、お互い取れたものや頂き物のやり取り、年2回の避難訓練(消防より2名参加)、運営推進会議に参加している民生委員・町内会役員の方の協力をお願い支援を行っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向を尊重し、以前通院していた病院で受診できるようかかりつけ医との関係を築き適切な医療を受けられるよう支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や法人内の看護師の協力を得ながら、日常の健康管理や医療の支援を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、定期的にお見舞いに行きその都度状況を聞いております。病院側からも分からないことは、電話や訪問時に相談され連携は十分は図れております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の指針、看取りに関する指針を設け、ご家族にも説明を行い同意を得ております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員消防が行っている普通救命講習を受講しており、年2回の定期的な防災会議を実施しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防の職員立会いのもと避難訓練を行っており、注意事項などその都度教えていただいております。そのうち1回は運営推進会議に出席していただき地域の皆さんを交え防火について学んでおります。避難訓練には、近所の方、ご家族、民生委員、町内会長、老人クラブ会長、地域包括支援センターの方に参加をしていただいております。緊急時の協力をお願いしております。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した言葉かけやプライバシーを尊重した対応をし、個人情報の保護にも配慮しております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人個人の意向を尊重し出来るだけ自分で決めたり、納得しながら安心して暮らせるように支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を傾聴し、できるだけ希望に添うように配慮しております。また表出できない方については、本人のペースに合わせ、ゆっくりゆったりと行動していただけるように配慮しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容店等なじみの店に出かけることが出来るようにしています。行事等に参加するときは、本人の好みに合わせ、その場に合った服を着ることが出来るように配慮しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好・状態に合わせ別メニューにしたり、食事を楽しんで頂けるように、能力に応じて食事の介助を行ったり。残存機能に応じて調理・下膳・茶碗洗いなど手伝って頂いております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が作成したメニューを元に食事・水分摂取表を作り管理しております。食事個人にあった形態で、提供しております。摂取状況に変化が見られた場合は栄養士よりアドバイス頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人の状態に合わせて介助しています。口腔ケア時に口腔内、舌のマッサージ等も行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し個人にあった時間に誘導を行っております。トイレに行きたいという排泄サインを見逃さないように支援しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけの医師への相談、法人内の栄養士からの指導、便通の良くなる食品の使用、訪問看護への相談、運動によりできるだけ自然に、出るように配慮しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めておりますが、本人の希望を聞いているとほとんどの方が、入浴したくないと話があるため入浴日には、出来るだけ入っていただけるようにしております。入りたい希望があれば、随時対応しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の対応を行うことにより、居心地が良いように配慮しております。疲れやすい方には昼寝を促すなど配慮、対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人のファイルに薬の一覧表を、つけて周知徹底をしています。疑問があれば直ぐに確認できるようにしている事と、薬服用のマニュアルを作成し服薬時には2名でチェックを行っており誤薬を防止しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かして、役割を担ってもらうなど個々に出来ることなど、なるべくやって頂いております。個人の好きなことなども尊重し行えるように配慮しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外にて日光浴を行い皆でお茶を飲んだりお菓子を食べたりされております。買い物・ドライブ・散歩など随時行っております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じて所持して頂いております。必要なものが、あれば一緒に買い物へ出かけるなどの対応行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける介助を行っております。手紙の投函などは、書く人がいない為、実施しておりませんが、支援いたします。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の生活感が出るように、食器棚、時計等配置しております。不快な光、音などには十分配慮しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間が広い為、一人になれたり、集うことが出来るよう、1人掛け、2~3人掛けのソファを設置しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で心地よく過ごせるように、自分が使い慣れた物を配置できるよう配慮しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要各所には手すりの設置、スペースが広い為、車椅子の自走も各人する事が出来、安全に残存機能をいかせるよう配慮しており、一人一人の理解力にあわせ混乱を招かないように、配慮し安全で出来るだけ自立した生活が送れるよう配慮しております。		